

多肉植物の魅力

総務課 橋本 純子

ぶっくりとして、そのフォルムがなんとも可愛らしい多肉植物。どことなく肉球にも似ているものもあり、見ていだけでも癒されます。そんな多肉植物について今回はお話したいと思います。

多肉植物とは

多肉植物とは、茎や葉などに水分を貯めることができる植物。多肉植物の茎や葉が肉厚でぶっくりしているのは、水分を貯蓄するためで、茎や葉の表面はクチクラ層とよばれる膜で覆われており、水分が蒸発するのを防いでいます。

多肉植物がこのような性質を持つ理由は、多肉植物の多くが乾燥地帯や高山など過酷な環境に生息しているからであり、過酷な環境で生きるために、このような進化を遂げたと言われています。

多肉植物の魅力

多肉植物には様々な種類があり、その見た目は多数あります。カラフルなもの、丸いもの、尖っているもの、トゲのように硬いもの、ぶにぶにとしたものの、ゴツゴツとした岩のようなもの、大きいもの、小さいものなどなど……。この見た目の面白さこそが多肉植物の魅力ではないでしょうか？

また、お部屋のインテリアとしても可愛らしく、心が癒されることもあるかと思えます。カラフルな多肉植物をお好みの容器に寄せ植えをしたり、自分の好きな配色などを楽しめることも魅力だと思います。

育てるにあたり1番気になることが、育てやすさではないでしょうか？ よく言われるメリットとしては、乾燥に強く、水やりの頻度が少なく済むため、育てやすい植物と言われます。しかし、いくら育てやすいと言っても、日照不足であったり、水のやり過ぎ、その他カビや害虫により枯れてしまうこともあります。

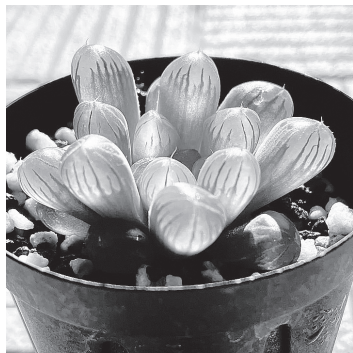
日照不足

日光の光は生命にとって重要なものであり、多肉植物も日照不足により、徒長して葉が色あせ、弱って枯れる原因となることがあります。病気はカビ・細菌・ウイルス・害虫によっても引き起こされますので、気を付けてあげたいところです。

私は多肉友達から株を分けてもらい「ハオルチア」「虹の玉」を育てていますが、水のやり過ぎと日照不足により、株がかなり少なくなっていました。日光がどれだけ大事なもののなか、また水やりの頻度や状況を見ることがどれほど大切なことなのかを痛感しているところです。今の株を回復させて、多肉植物の育成ライフをもう少し楽しめたらいいなと思っています。



寄せ植え



ハオルチア



虹の玉

リンナイ浴室暖房乾燥機をご使用のお客様へ ～重要なお知らせ～

リンナイ製の2003年8月から2020年8月までの期間に製造した「浴室暖房乾燥機」につきまして、10年以上経過した浴室暖房乾燥機の温風等を浴室内に循環させるファンのモーターの経年劣化故障により、ごくまれに発火による製品の焼損に至るおそれがあることが判明しました。

つきましては、該当製品の無償点検および経年劣化時に発火を防止する制御基板の取付作業を実施させていただきたく、お知らせ申し上げます。

お客さまには、点検および作業の実施にあたり、ご心配とご迷惑をお掛けしますことを、心からお詫び申し上げます。

お手数をおかけしますが、ご自宅の浴室暖房乾燥機のご確認をお願いいたします。対象製品の見分け方はリンナイのホームページをご確認ください。

リンナイホームページURL:<https://www.rinnai.co.jp/>

お問い合わせ窓口：点検および作業受付

電話受付(専用フリーダイヤル(無料)) 4月17日より
浴室暖房乾燥機点検受付センター：0120-113-531
受付時間：6月8日まで 午前9時から午後7時(土日・祝含む)
6月9日以降 午前9時から午後5時(日・祝を除く)

アポ新聞

千本鳥居でお馴染みの 伏見稲荷大社に 行ってきました！



外販課 山島 秀章

京都には数多くの神社がありますが、「お稲荷さん」と親しまれる伏見稲荷大社は、全国に約3万社ある稲荷神社の総本宮。五穀豊穰、商売繁盛、家内安全、諸願成就の神様として崇められ、一年を通してたくさんの参拝者で賑わっています。しかも拝観時間は24時間可能で休みなしです。

今回のアクセス方法は、近鉄電車で近鉄丹波橋駅から京阪電車に乗換、丹波橋駅～伏見稲荷駅で下車。徒歩で伏見稲荷大社裏参道から入りました。又、帰り道は伏見稲荷大社表参道を通り大鳥居をくぐり、道路を横断するとJR稲荷駅からいったん京都駅に向かい近鉄電車に乗り換えて自宅に戻りました。

そんな人気の伏見稲荷大社の最大の見どころといえば「千本鳥居」です。

朱塗りの鳥居がずらりと連なる光景は圧巻です。これは江戸時代以降に、願い事が通るように、また願い事が通ったというお礼を込めて鳥居の奉納が広まったことによるものだそうです。隙間なく並んでいる鳥居は参拝者の思いがこもっていることを実感しました。

境内を歩けば至るところでキツネに出会います。格好も様々なので、チェックしながら巡り歩くのも楽しかったです。

また今回は、初めて「お山めぐり」も体験してきました。

実は境内はとても広く、稲荷大神様が鎮座した稲荷山全体が信仰の対象となっていて、標高約233メートル、一周歩くと2時間ほどかかります。ご利益のあるお塚や見どころが随所にあり、「お山めぐり」を体験してこそ伏見稲荷大社全体を知ることができたと思います。

特に印象に残ったのは、健康にちなんだお社がいくつかあり、目のご利益があるという「眼力社」や喉のご利益があるという「おせき社」や無病息災のご利益があるという「薬力社」などお参りできて良かったです。

途中絶景スポットが何カ所もあり、見事な景色に幾分か疲れが和らぎました。ただ参拝者のほとんどが外国の方で、たまにすれ違う日本人の方から聞こえてくる日常の会話にも心が和らいだのは私だけでしょうか？

伏見稲荷大社では四季を通じて祭事が行われていますが、毎年7月に開催される「本宮祭」が人気だそうで、その前夜祭にあたる宵宮祭では、麓から峰々に続く鳥居が数千の提灯で幻想的に照らし出され、京都の夏のインスタ映えする定番行事となっています。

「本宮祭」とは稲荷大神様の御分霊を勧請されている全国の信仰者が、親神様のもとに参拝し日頃の御加護、御神恩を感謝し、御神慮をお慰めするお祭りです。

宵宮祭では稲荷山全域にわたり奉納提灯の明かりが灯される万灯神事が行われ、朱塗りの提灯に明かりが灯され始めると、朱色の社殿に朱色の光が漆黒の闇に浮かび上がり、赤と黒が織りなす幻想的な雰囲気になります。稲荷山の最高峰である一ノ峰まで続く千本鳥居にも奉納提灯に明かりが灯され、朱塗りの鳥居が提灯の明かりでライトアップされます。

「宵宮祭」 7月本宮祭の前日

「本宮祭」 7月土用入り後初の日曜日または祝日

次回はこのような祭事にも訪ねてみたいものです。